

2018年1月13日

同志社大学文学部英文学科

稲垣 さくら

卒業論文発表

True Happiness: The Lesson of *A Christmas Carol*

A Christmas Carol

・作者：Charles Dickens (1812-1870)

・1843年出版

<発表構成>

1. 物語の概要
2. 主張
3. 内容
4. まとめ

<物語の概要>

▽登場人物

- ・スクルージ (主人公)
欲にまみれた老人
- ・マーレイ
スクルージの元協同経営者
- ・ボブクラチット
スクルージの事務所の事務員
- ・タイニーティム
ボブの息子

▽あらすじ

・改心前

舞台は19世紀イギリスのロンドンのクリスマスイブ。クリスマスの活気に満ちた町の雰囲気とは反対に、スクルージはいつも通り仕事に没頭している。クリスマスに浮かれた人々

をバカにしながら帰宅すると、マーレイの霊が出現。

・過去

第1の精霊がスクルージを過去へと導く。幼い頃の純粋な心を持った自分を見て彼は、だんだんと失っていた感情をとり戻していく。

・現在

第2の精霊は彼を現在へと導く。毎日仕事に追われ、笑うこともできなくなった彼自身が映される。その一方で貧乏ながらも幸せに暮らす家族の暮らしを見て、幸せとは何か見直すようになる。

・未来

第3の精霊は彼を未来へと導く。人々は誰かの死について話し合っている。その者の死を嘆くわけではなく、当然の報いだというばかりに喜んでいる様子。スクルージはその人物が自分だと知った時、自分の行いについて反省し、改心を決心する。

・改心後

これらの3つのタイムトラベルを通してスクルージはお金ではない本当の幸せについて考え直し、町で1番の人気者と言われるような「スクルージおじさん」になる。

<主張>

『クリスマスキャロル』には、「人間にとって最も大切なものはお金でも名声でもない。人を思いやり、人と支えあい、小さな幸せを実感していくことである」と私たちに再認識させてくれる大きな役割が込められている。

<内容>

◎第1章

19世紀イギリスの時代背景

ディケンズの生涯

スクルージに見られる当時の人々の特徴

▽19世紀イギリス

- ・工業化の急速な発展
- ・農地改革による強制移住
 - 貧富の差が拡大（人々はこれまで以上に欲を求めるように）

▽ディケンズの生涯

- ・比較的裕福な暮らし
 - ⇕
 - ・父親の借金による貧乏生活
 - 『クリスマスキャロル』の執筆に影響

▽スクルージに見られる当時の人々の人物像

- ・冷酷
- ・お金が全て
- ・孤独
- ・情のかけらもない
 - 「孤児なんて死んでしまった方が、人口が抑えられていい」
- ・やり手な高利貸し
 - 当時の支配者層であった実業家たちに忠告

◎第2章

子供たちが果たす役割

- ・スクルージ自身の子供時代
- ・病気がちのタイニーティム
- ・無知と貧困を象徴する2人の子供

▽少年時代のスクルージ

スクルージに改心のきっかけを与える役割

- ・慣れ親しんだ故郷
- ・知人とのパーティー
- 純粋な心

▽タイニーティム

スクルージに本当の幸せを気づかせる役割

- ・ホームメイドのクリスマスディナー
- ・家族の温かな雰囲気
- ・懸命に生きる姿
- お金では買えない幸せ

▽無知と貧困を象徴する少年少女

スクルージの自己中心さを知らしめる役割

- ・ぼろぼろな姿
- ・苦しい生活
- 社会の闇

◎第3章

死が果たす役割

- ・マーレイの霊
- ・タイニーティムの死
- ・自身の死
- ・比喩的な意味の死

▽マーレイの霊

- ・死後7年間さまよい続ける
- ・スクルージに忠告
- ・タイムトラベルへの扉を開く人物
- 「スクルージ・アンド・マーレイ商会」
- 幽霊（マーレイ）⇔未来ある者（スクルージ）

▽タイニーティムの死

- 「病人なんて勝手に死んでいけばいい」
- 過去の発言に後悔
- 嘆き悲しむスクルージ

▽スクルージ自身の死

- ・自分の死を喜ぶ周りの人々
- ・最大の脅威「死」
- ・生きている意味

▽比喩的な死

スクルージの中の2つの大きな喪失

→「純粋な心」「人とのつながり」

<まとめ>

『クリスマスキャロル』が世界中で愛される理由は？

→最大のテーマ＝「幸せ」

- ・ 19世紀イギリス
革命が立て続けに起こった激動の時代
→人々は生きるために必死
- ・ 現代のわたしたち
競争社会と言われる時代
→上を目指して必死

Q、本当の幸せとは？

A、人と助け合いながら、小さな幸せを実感していくこと

『クリスマスキャロル』＝バイブル

Works Consulted

- Dickens, Charles. *A Christmas Carol*. Bantam Classic, 1986.
 ---. *A Christmas Carol*. Translated by Akiko Waki. Iwanami, 2001.
 ---. *A Christmas Carol*. Translated by Hiroaki Ike. Koubunsha, 2006.
 Eida Takahiro. *Jukyu Seiki Igirisushi [The History of Nineteenth-Century England]*. Waseda University Press, 1969.
 Fielding, K. J. *Charles Dickens: A Critical Introduction*. Longman, 1958.
 Forster, John. *The Life of Charles Dickens*. Chapman and Hall, 1872.
 Gold, Joseph. *Charles Dickens: Radical Moralists*. University of Minnesota Press, 1972.
 Hardwick, Michael, and Mollie Hardwick. *Charles Dickens*. Harrap, 1970.
 Kent, Charles. *Charles Dickens as a Reader*. Haskell House, 1973.
 Koshikawa Hirohide. *Kirisutokyo no Umarerutokoro [The Birthplace of Christianity]*. Kirisuto Simbun, 2004.
 Matsumura Masaie. *Dikenzu no Shosetsu to Sonojidai [Dickens' Novels and Times]*.

- Kenkyusya, 1989.
- Mitsuboshi Kenzo. *Charuzu Dikenzu: Shogai to Sakuhin. [Charles Dickens: Life and Works]*. Bunyosya, 1995.
- Sanders, Andrew. *Charles Dickens*. Translated by Manami Tamura. Sairyusya, 2015.
- Schlicke, Paul. *Dickens and Popular Entertainment*. Allen and Unwin, 1985.
- Shimada Keiko. *Dikenzubungaku no Yami to Hikari [The Darkness and Light of Dickens' Works]*. Sairyusya, 2010.
- Slater, Michael. *An Intelligent Person's Guide to Dickens*. Translated by Toru Sasaki. Harashobo, 2005.
- Watkins, Gwen. *Dickens in Search of Himself*. Macmillan, 1987.